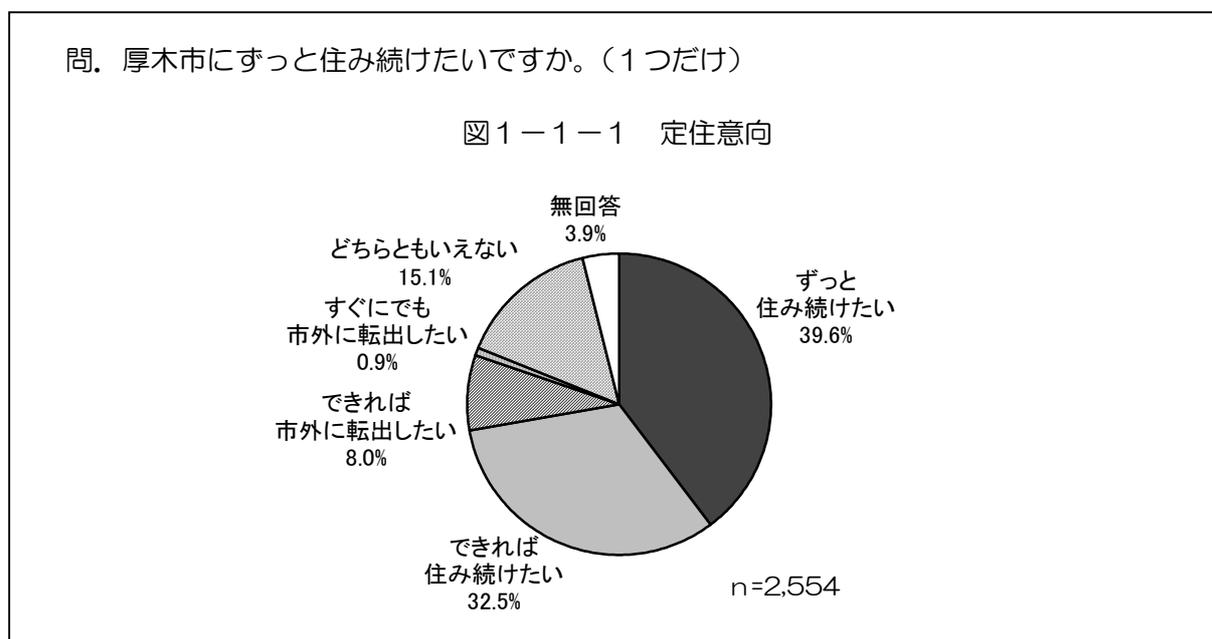


Ⅲ. 意識調査結果

1 暮らしの状況

(1) 定住意向 (A・B：問1)



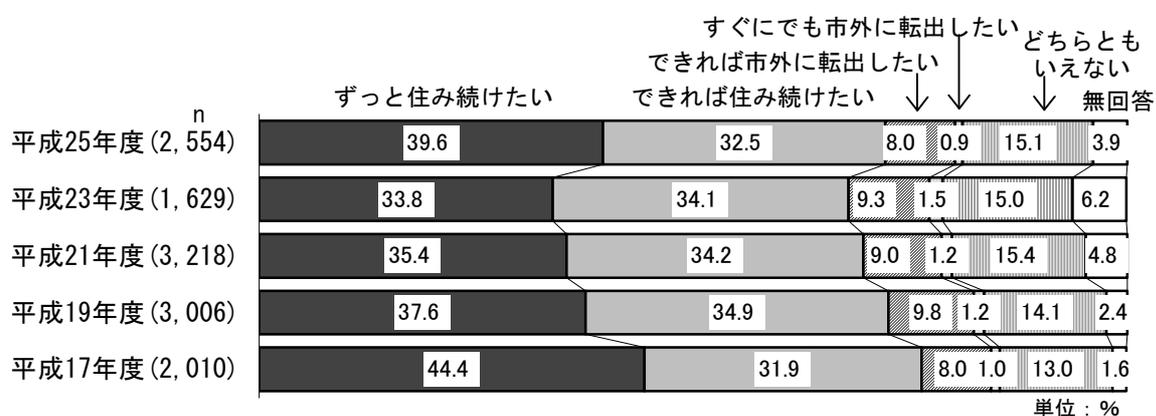
【全体】

厚木市への定住意向は、「ずっと住み続けたい」(39.6%)が4割に近く、これに「できれば住み続けたい」(32.5%)を合わせた『定住意向』(72.1%)は7割を超えている。一方、「できれば市外に転出したい」(8.0%)と「すぐにでも市外に転出したい」(0.9%)を合わせた『転出意向』(8.9%)は1割以下となっている。

【経年変化】

「ずっと住み続けたい」は3割台を維持したものの、平成17年度調査以降、平成23年度調査まで減少傾向が続いていたが、今回は39.6%と増加している。

図1-1-2 定住意向一経年変化

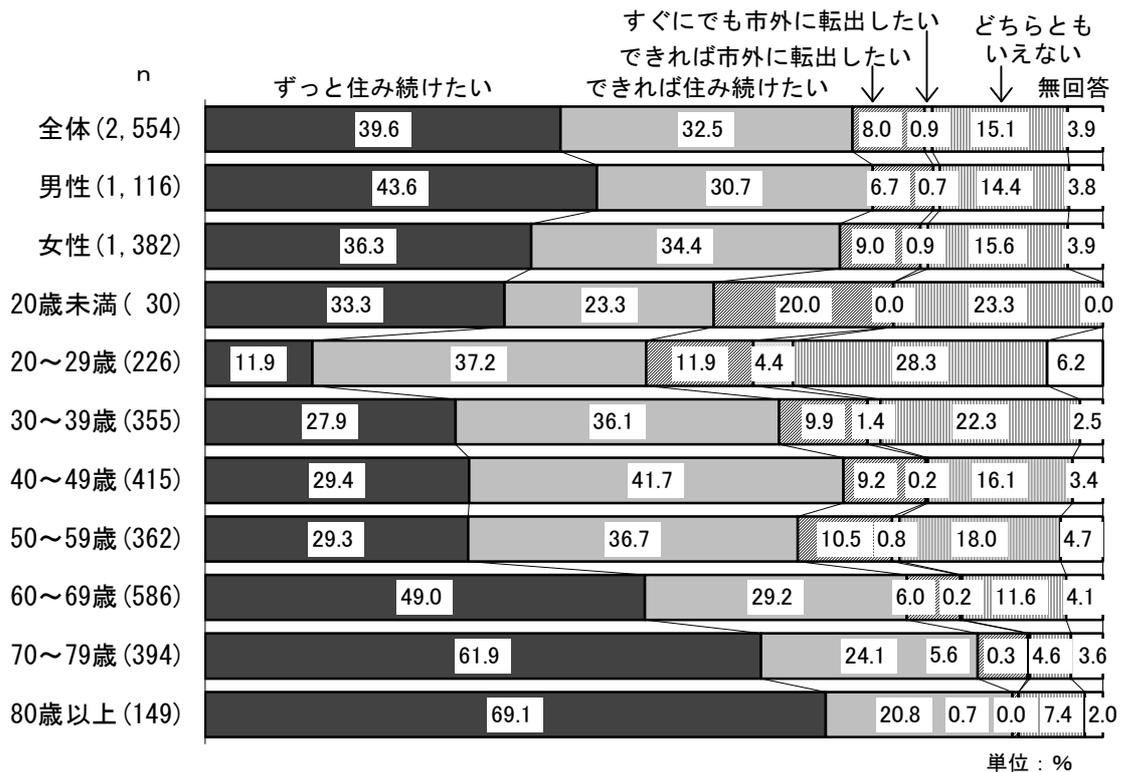


【属性別】

性別で見ると、男性で「ずっと住み続けたい」（43.6%）が女性より 7.3 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、おおむね年代が高くなるにつれて『定住意向』の占める割合が高くなる傾向にあり、40 歳代、60 歳以上では7割以上となっている。

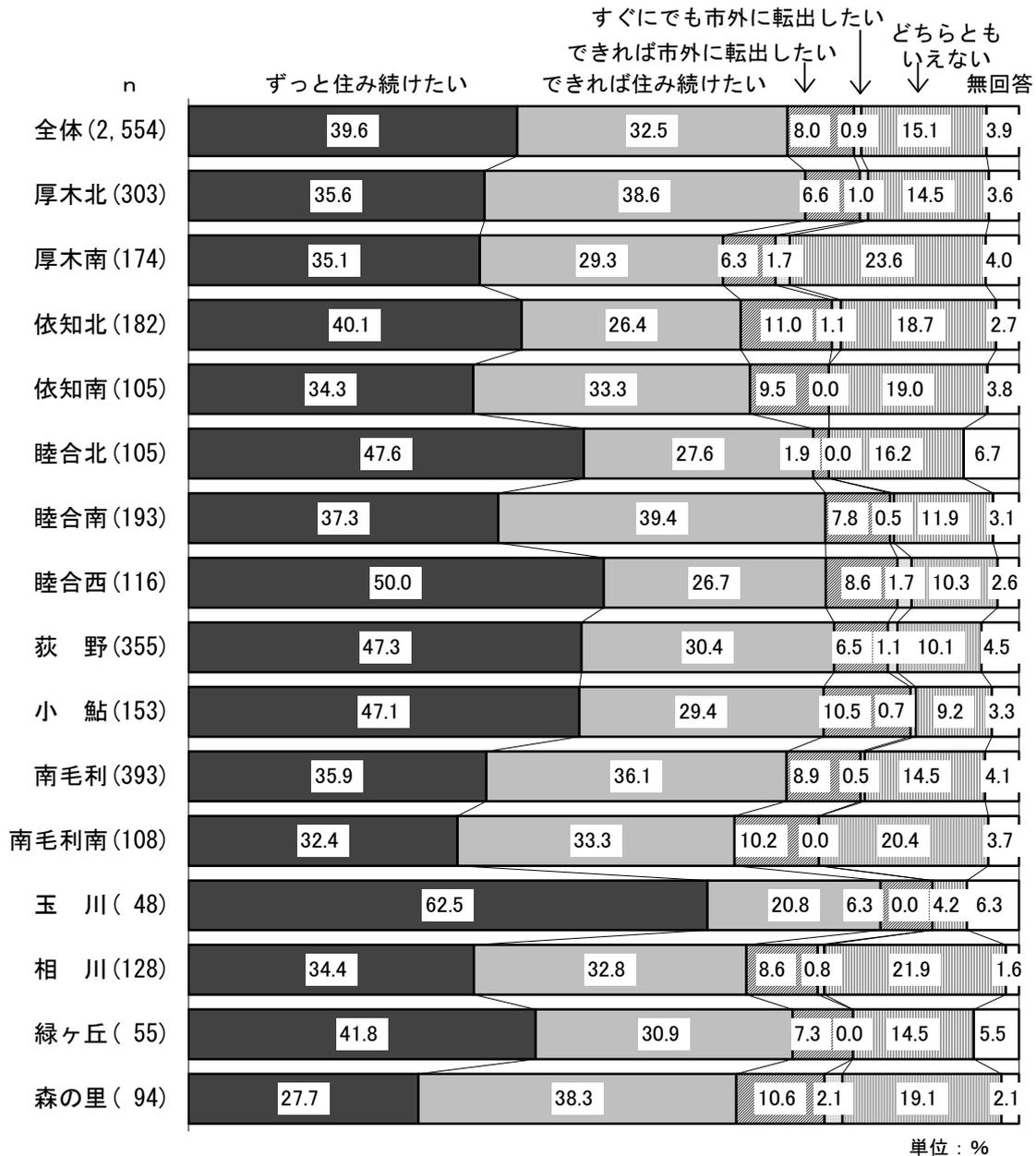
図 1-1-3 定住意向—性別、年齢別



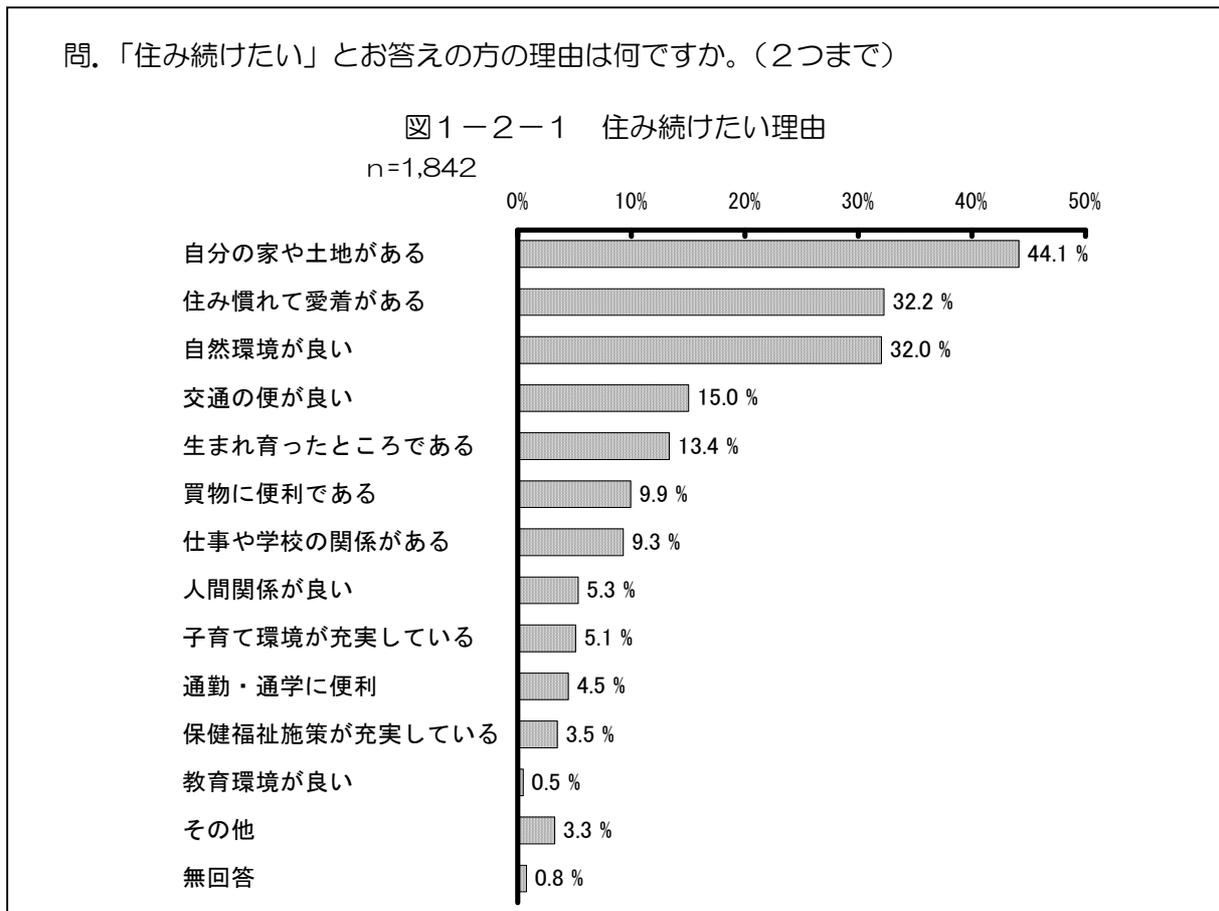
【居住地区別】

居住地区別で見ると、『定住意向』が高い地区は、玉川（83.3%）、荻野（77.7%）、睦合西（76.7%）、睦合南（76.7%）、小鮎（76.5%）の順となっている。一方、『定住意向』が低い地区は、厚木南（64.4%）、南毛利南（65.7%）、森の里（66.0%）、依知北（66.5%）、相川（67.2%）の順となっている。

図1-1-4 定住意向—居住地区別



(2) 住み続けたい理由 (A・B：問2)



【全体】

厚木市に「ずっと住み続けたい」又は「できれば住み続けたい」と答えた人(1,842人)にその理由を聞いたところ、「自分の家や土地がある」(44.1%)が4割を超え最も高くなっている。

次いで、「住み慣れて愛着がある」(32.2%)、「自然環境が良い」(32.0%)と、この3項目が3割を超えて非常に多くなっており、「住み続けたい」主な理由となっている。

【経年変化】

「自分の家や土地がある」(44.1%)が、今回の調査では5割を下回ったが、一方で「自然環境が良い」が、年々増加している。

表1-2-1 住み続けたい理由—経年変化

(単位：%)	平成 25年度 (n=1,842)	平成 23年度 (n=1,106)	平成 21年度 (n=2,237)	平成 19年度 (n=2,178)	平成 17年度 (n=1,534)
自分の家や土地がある	44.1	52.8	54.7	53.9	53.4
住み慣れて愛着がある	32.2	33.4	35.0	35.2	42.6
自然環境が良い	32.0	31.0	29.8	30.9	27.4
交通の便が良い	15.0	12.6	12.5	10.1	11.3
生まれ育ったところである	13.4	13.5	14.9	15.2	25.2
買物に便利である	9.9	6.6	7.3	9.1	8.7
仕事や学校の関係がある	9.3	9.0	9.4	8.3	6.4
人間関係が良い	5.3	6.1	5.7	7.0	5.3
子育て環境が充実している	5.1	5.2	-	-	-
通勤・通学に便利	4.5	4.4	3.6	2.9	2.4
保健福祉施策が充実している	3.5	2.9	2.8	3.4	2.4
教育環境が良い	0.5	0.4	1.2	0.6	0.7
その他	3.3	3.4	2.0	1.7	1.0
無回答	0.8	2.3	0.7	2.2	0.3

(注) 平成23年度調査からは、「子育て環境が充実している」が選択肢に追加されているため、21年度以前は参考に掲載する。

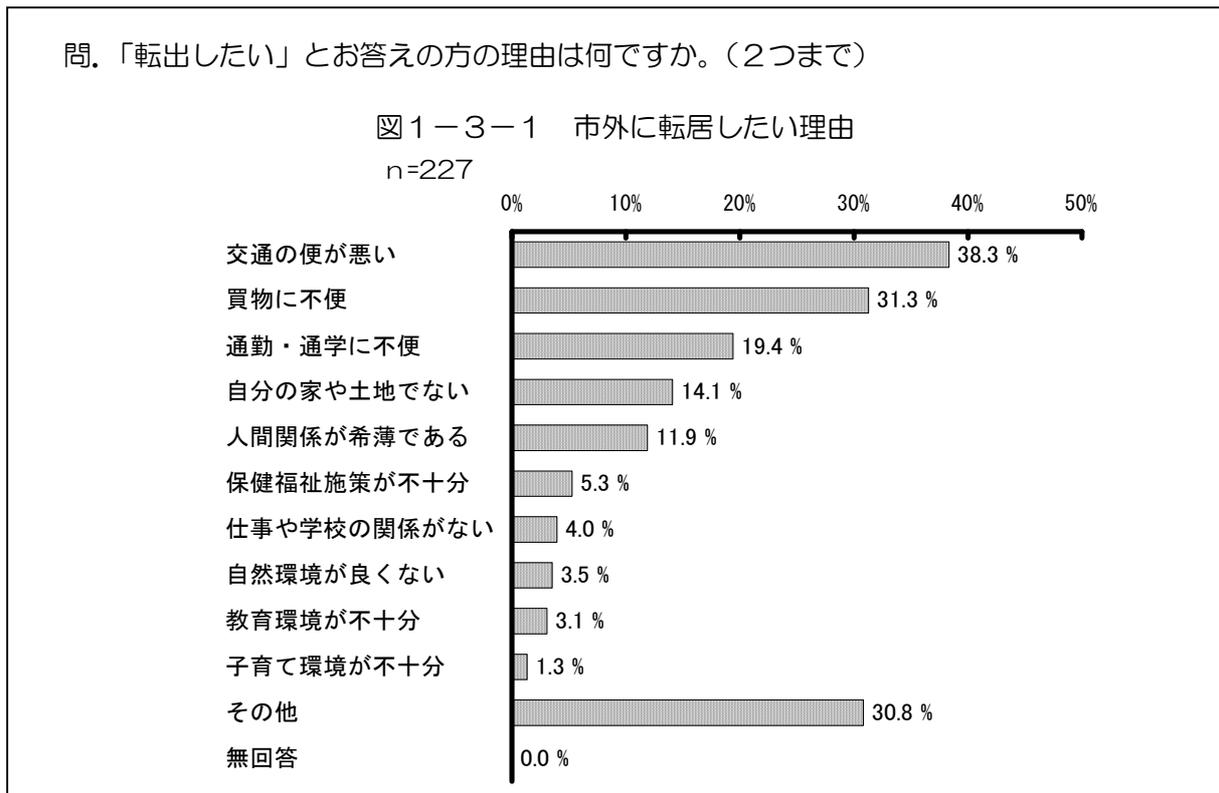
【属性別】

居住年数別で見ると、「20年以上（転入して以来）」で「自分の家や土地がある」（51.5%）や、「住み慣れて愛着がある」（40.2%）が他の居住年数より高くなっている。また、「交通の便がよい」では、3～4年（24.2%）、5～9年が（22.1%）、10～19年（転入して以来）（20.6%）が、「仕事や学校の関係がある」では2年以下（24.2%）、3～4年（22.6%）、5～9年（16.3%）が、他の居住年数と比べてそれぞれ上位となっている。

表1-2-2 住み続けたい理由—居住年数別

(単位：%)	自分の家や土地がある	住み慣れて愛着がある	自然環境が良い	交通の便が良い	生まれ育ったところである	買物に便利である	仕事や学校の関係がある	人間関係が良い	子育て環境が充実している	通勤・通学に便利	保健福祉施策が充実している	教育環境が良い	その他	無回答
合計 (n=1,842)	44.1	32.2	32.0	15.0	13.4	9.9	9.3	5.3	5.1	4.5	3.5	0.5	3.3	0.8
20年以上 (生まれてからずっと) (n=477)	43.8	32.1	21.6	10.5	40.7	6.5	7.1	4.0	7.8	2.1	2.5	0.4	1.3	0.4
20年以上 (転入して以来) (n=811)	51.5	40.2	37.4	14.7	2.8	10.6	6.2	6.5	2.1	2.6	2.3	0.1	2.6	0.9
10～19年 (生まれてからずっと) (n=34)	38.2	29.4	23.5	8.8	35.3	0.0	8.8	5.9	0.0	8.8	8.8	2.9	0.0	2.9
10～19年 (転入して以来) (n=252)	37.7	27.4	34.9	20.6	2.0	9.9	13.9	4.0	8.7	6.7	7.1	0.8	3.2	0.8
5～9年 (n=104)	30.8	14.4	35.6	22.1	0.0	15.4	16.3	5.8	1.9	11.5	9.6	0.0	6.7	1.0
3～4年 (n=62)	17.7	9.7	32.3	24.2	3.2	17.7	22.6	8.1	9.7	11.3	1.6	3.2	9.7	0.0
2年以下 (n=62)	16.1	4.8	32.3	14.5	4.8	17.7	24.2	3.2	14.5	16.1	1.6	1.6	19.4	1.6

(3) 市外に転居したい理由 (A・B：問3)



【全体】

「できれば市外に転居したい」又は「すぐにでも市外に転居したい」と答えた人(227人)にその理由を聞いたところ、「交通の便が悪い」(38.3%)が、4割に近く最も高くなっている。

次いで、「買物に不便」(31.3%)と、この2項目が3割を超えて高くなっている。

【経年変化】

前回調査と比較すると、上位5項目の順位に変動はなく、「交通の便が悪い」（38.3%）が、引き続き最も高くなっているが、今回は4割を下回る結果となっている。

表1-3-1 市外に転居したい理由—経年変化

(単位：%)	平成25年度 (n=227)	平成23年度 (n=177)	平成21年度 (n=329)	平成19年度 (n=331)	平成17年度 (n=182)
交通の便が悪い	38.3	41.2	45.0	42.3	45.1
買物に不便	31.3	29.4	33.1	25.4	33.5
通勤・通学に不便	19.4	22.0	19.5	26.0	28.0
自分の家や土地でない	14.1	14.1	10.6	10.0	3.8
人間関係が希薄である	11.9	8.5	10.3	7.6	6.0
保健福祉施策が不十分	5.3	6.2	8.5	9.1	9.3
仕事や学校の関係がない	4.0	5.6	5.2	5.4	7.1
自然環境が良くない	3.5	8.5	12.2	12.4	12.6
教育環境が不十分	3.1	6.2	10.6	10.9	8.8
子育て環境が不十分	1.3	7.9	-	-	-
その他	30.8	22.6	18.5	23.6	23.6
無回答	0.0	2.8	0.3	0.3	0.0

(注) 平成23年度調査からは、「子育て環境が不十分」が選択肢に追加されているため、21年度以前は参考に掲載する。